



先月の山行

- ☆ 10月14日(日) 能郷白山
- ☆ 21日(日) 県連主催赤兎山
- ☆ 28日(日) 竜が岳

11月の予定

- ☆ 8日(木) 例会
- ☆ 11日(日) 雲谷山～

CL 清家

- ☆ 25日(日) 己高山「こだかみ」滋賀県

CL 小柏

12月の予定

- ★ 6日(木) 忘年会
- ☆ 9日(日) 雲仙山(滋賀県)

4時間半今畑山周遊 1084m

CL

- ☆ 23日(日) 由良ヶ岳 青葉山

CL

2019年1月2日(水)

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

〔山行報告〕

能郷白山 (1617m)

日時：2018年10月14日(日)



2018.10.13 ナナカマドと白山(大倉尾根上部より)

温見峠までは大野よりずいぶん遠いイメージがある。というのも国道(157号線)といっても通行止めの多い酷道で岐阜県境に行くのが大変だからである。今年も春に定例山行が計画されていたが、台風の影響で取り止め、延期になった経緯がある。今回も岐阜県側が通行止めになっていて大野から温見峠まで行けるか不安だった。

ところで能郷白山は200名山で、一昨年NHKの「グレートトラバース」という番組が放映されていた。私の知人もわざわざ田中陽希氏に会いに行ったそう。でも深田久弥がなぜこの山を200名山に選んだかわからない。この山の奥深さに魅かれたのだろうか。

カネキから約1時間半で温見峠に到着するが、路肩に駐車してある車が多く停めるところがない。仕方がないので岐阜県側通行止めのロープを取って、岐阜県側の路肩に停めた。実に賢い判断だった。

個人的には12年ぶりの能郷白山で、どんな山だったか記憶が定かでない。記録を見ると夏の暑い日に登っているのである。不安と期待と回顧しながらの登山になった。

峠登山口からいきなりの急登で驚く。ロープや木、岩

に捕まりながら身体を上にもっていかねばならぬ。息せき切って何とか尾根に着いた。今年の紅葉は台風の影響であろうか、あまりきれいではない。特に近くで見ると葉っぱが縮れていて今にも枯れて落ちそうだ。頂上の一等三角点地点はきれいに伐採されていて遠くまで良く見える。美濃や奥越の山や白山が雲間に見えて360度の眺望が楽しめた。でも奥の院の祠は壊れ、残骸化していた。豚汁をおいしくいただき、方位盤を見て山座同定を楽しんだ。



県連主催赤兎山



今日は、労山県主催山行で赤兎山です。でも、参加したクラブはあしハイキングクラブと山遊会だけでした。朝7時集合の駐車場は15台とかなりの台数になりました。あしハイキングは5名、山遊会は10名の山行です。私達は市ノ瀬まで走り、砂利道の林道を進む。情報では三ツ谷の分岐から悪路だと言うことで、行けるところまで行くことにしていた。分岐に着くと出発直前のグループがいた。グループの後ろまで車を着けると、入って来るのかと言わんばかりに睨まれてしまった。先に進むのを諦めて林道を歩くことにした。進んでも、進んでも悪路になら

ない。そのうち後ろから車がやって来た。どうも車で行けたようだ。三ツ谷の分岐に登山者がいなければ車で進んだのに、と後悔しながら林道を歩く。約1時間かけてようやく登山口に着く。そこは広い駐車場になっていて5~6台の車が停まっていた。全く悪路ではなかった。川を渡り登山道に入る。すぐに丸太に越前禅定道と書かかれている。細い登山道を登っていくと、川上御前の標識もあった。分岐であった登山グループに追いついた。愛知県からきたグループでした。川上御前の祠で追い抜き先に進む。太陽の光が差し込んできた。先週行った能郷白山の紅葉とは全く違っていた。素晴らしい紅葉です。真っ青空に、ブナの黄色が映える。綺麗だ！思わず立ち止まって見とれてしまう。進んでは止まりの繰り返しです。小原峠までジグザクに登っていく。また祠が出て、すぐに小原峠に着いた。小原峠から大長山方向の紅葉も素晴らしい！大舟分岐まで段差の大きい急登です。振り返ると大長山が良く見える。大舟分岐着く。経ヶ岳が正面に見えた。稜線の奥に赤兎山の頂上が見えた。もうすぐだ。稜線の左手には白山、別山、三ノ峰、連なるすべての山が見渡せる。最後の登りを終わると頂上に着く。雲一つ無い青空、360度の展望。これだけ綺麗に見たのは久しぶりだ。

避難小屋に向かって下りていく。避難小屋まで伸びる登山道、その奥には白山、ここから見る景色は最高です。避難小屋に着く。山遊会がない。崖の方に進む。居た。すでに昼食が終わりに近づいていた。私達も昼食です。今日はラーメンです。美味しくいただきました。久しぶりに加藤さんのオカリナを聞く。懐かしい！避難小屋の前であしハイキング、山遊会合同の記念写真を撮る。年1回ぐらいは合同で行きたいものです。山遊会より先に下山開始。ほぼ休憩無しで林道に出た。ところが宮本さんと岩本さんが来ない。10分位経っても来ない。川上御前で休憩していた人が下りて来たので、2人を見ませんでしたかと尋ねたが、追い抜いたりしてはいないと言う。確かに川上御前までは一緒に来たのにどうしたのだろうか？心配になって下村さんが走って見に行った。5分位後によく姿を見せた。宮本さんが遭難していたと言う。どうやら川上御前からもう一本道がありその道を進んで行ってしまったとのこと。途中でおかしいと気づき、YAMAPで確認すると道間違いに気づいた。YAMAPは頼りになりますね。長い林道をテクテク戻りました。今日は最高の晴天に恵まれ、真っ青な空に映える紅葉と大迫力の白山連峰が見られて、素晴らしい山行になりました。

竜ヶ岳 1099m

日時 2018年10月28日



今日は鈴鹿の竜ヶ岳の赤い羊を見に行く山行です。福井は朝から雨です。天気予報を信じて5時に福井を出る。賤ヶ岳を抜け木之本に入ると天気が一変した。快晴です。それも雲一な無い天気、最高の山行日和です。7時ごろ宇賀溪の駐車場に着く。すでに多くの車が停まっている。そして大勢の登山者が支度を整えている。駐車場から頂上が真っ青の空の下にクッキリ見えた。寒いので上着を着て、足には山ヒル対策のスパッツを着ける。出足は舗装の林道を進む。遠足尾根の登山口に着く。やっぱり動く暑くなった。上着を脱ぐ。さあ、登山開始です。急な坂をジグザクに登っていく。突然岩場が出た。大した岩場では無いが、登ると展望台になっている。竜ヶ岳の頂上がよく見える。反対側には木曾三川の木曾川、四日市のコンビナート、その先には伊勢湾が広がっている。岩場を下りるとまた岩場になる。登り終わると尾根にでた。杉林が終わり落葉樹に変わった。紅葉にはまだ先の感じがする。一部枯れている木もある。台風の影響だろうか？木漏れ日の尾根を進んで行く。アップダウンを繰り返して行く。樹木が突然なくなった。視界が広がった。竜ヶ岳の頂上が見える。頂上に伸びる登山道、竜ヶ岳につながる稜線、真っ青な空、鈴鹿の山並み、綺麗な光景です。更に高度を上げ、振り返ると濃尾平野が広さ180度の展望です。いい山だ！天空の庭園のような場所を通り抜けると、いよいよ頂上への登りです。最後の登りの途中で振り返り、赤い羊を見る。シロヤシオの葉が落ちてしまい、ほとんど枯れている。ここも台風の影響でしょうか、残念な結果になってしまった。頂上に着く。相変わらず風が強い、そして寒い！今日の昼食はゼンザイです。熱く美味しいゼンザイは体も心も温まりました。下山は中道です。急坂の下山道です。頂上から濃尾平野に向かって一気に下りるような感じですが、滑らないように慎重に下りる。やがて涸れ沢に出る。沢沿い下りていく。中道の最大の見所である、堰堤の梯子です。20m位を下りて行きます。梯子の幅が違うので踏み外さないように下りる。さらに

進むと小さい堰堤に出る。ここの梯子の鉄が折れ曲がっているため、非常に下り難い。分岐に出て最後の登りを登り終わると、後はほぼ水平移動です。五階滝に着く。五階建てに落ちる滝です。その滝の間を飛び越えて行きます。滑らないように大きな岩を2回飛び越える。少し下ると橋がある。この橋を超えるともうすぐ林道です。橋を渡り、進んで行くと流された吊橋に出る。川に下りて新しい丸太の橋を渡る。坂を登ると林道に出た。遠足尾根の登山口の前を通り、駐車場に戻る。今日の山行は天気に恵まれ最高の山行になりましたが、赤い羊だけは残念な結果になった。来年チャンスがあれば再度チャレンジです。



雨飾山 (1963m)

日時：2018年10月22日（月）

紅葉のいい時期である。紅葉の山といえば日本中いくらかでもある。新潟県の雨飾山もそのひとつであろう。今回山好きの知り合いが以前から「一度この山に連れて行ってほしい」と頼まれていたので、天気を見計ら

って行くことにした。実は昨年も私は同じ時期に行っているのだが、この時は天気恵まれずガスの中を登っている。

福井北 IC より糸魚川 IC を経由し、約 3 時間で雨飾キャンプ場駐車場に到着した。今日は月曜日だというのに 7 時前で駐車場は満杯で次々と車が入ってくる。慌てて近くの路肩に車を停めた。

昨年経験から登山道の様子は分かっているので長靴を履いて出発した。大海川に沿って進むと大きなミズバショウの葉がいっぱいあり、ここは雨が多いところだと容易に想像できる。道路脇の葉には今朝の気温は氷点下だったのか霜がついていて、しかも山に囲まれているせいか陰っていて寒い。

木道を進むと 1/11 の標識がある。10 ではなく 11 とは何だろうと思うが、分子の 1 は 400m で、頂上まで 4, 4km あることになる。

2/11 の標識まではアップダウンの少ない木道歩きだったが、ここからが急登の始まりになる。大きな石や小さな石がゴロゴロあり、歩きづらく、たまに泥道で滑りやすいところもある。一息ついて見上げるとブナの大木の黄葉が太陽に照らされて透き通っている。たまにカエデやナナカマドの赤い葉があって美しい。途中半分くらいのところに携帯トイレブースがある。そう言えば登山口に携帯トイレの自動販売機 (500 円) があつた。地球にやさしいそんな山である。

少し進むと下りになり、いきなり目の前に布団菱の岩壁が現われた。ここがああインスタ映えする「荒菅沢」だ。「アラー、スゲー、サワ」と駄洒落を言ってみる。カメラをアングル変えていろいろ撮ってみる。今日は青空で写真も映える。

ここから再び急登が始まり、梯子を越えて一面クマザサの笹平に到着。ここからの眺めも良く、東に噴煙を出す焼山とその後方に火打山が見える。そして前方に雨飾山の双耳峰がある。頂上までの最後の急登で振り向くと、今歩いてきた笹平の登山道が女神の横顔になっている。まさにご褒美に女神が微笑んでいるようである。

頂上に着くと石仏と祠のある南峰と、標柱と三角点がある北峰に多くの登山客がいた。頂上から 360 度の眺め。糸魚川の市街地と日本海、柵海街道から朝日、雪倉、白馬三山、唐松、五竜、鹿島槍、爺の後立山連峰の稜線の大パノラマが見えた。その横にうっすらと槍ヶ岳、穂高連峰もある。雪倉と白馬岳の頭には既に白いものがあつた。

下山後、車を 10 分ほど走らせ鎌池という紅葉スポットに立ち寄つた。福井でいうと刈込池のようなところで池の周りを約 40 分歩けるのがいい。毎年のように訪れるアマチュアの写真家もいるそうだ。でも今年の紅葉はいまいちのようで赤が足りない気がした。



頂上付近から見た笹平の女神の横顔のような登山道
巻機山 (1967m)

日時：2018 年 10 月 8 日 (月)

報告者：岩本裕昭 (個人山行)

新潟の巻機山のコースタイムをみると、白山のそれより長いイメージがありとても日帰りできる山だとは思っていなかった。今回その巻機山にチャレンジすることにした。

前日に上越 IC で下りて国道 253 号線を利用し、十日町から六日町まで 350 km、5 時間半かけて道の駅「南魚沼雪あかり」に着いた。そこで仮眠し、翌朝早く登山口の「桜坂駐車場」に入った。まだ 6 時前というのに駐車場はほぼ満杯で、前夜から泊まっている人も多くいたに違いない。

駐車場にパトカーや消防団の人たちがたむろしている。聞くところによると前日雨の中、雨具を付けずに難路のヌクビ沢コースを歩き、低体温症で避難小屋に泊まった人がいたそうだ。今日も天気予報では晴れマークだが、残念ながらガスの中の登山である。

私達は一般コースの井戸尾根コースを進む。井戸の壁という急坂を登り約 50 分で五合目に着く。さらに木肌の美しいブナ林を歩き標高 1300m 付近から紅葉が見頃を迎えていた。

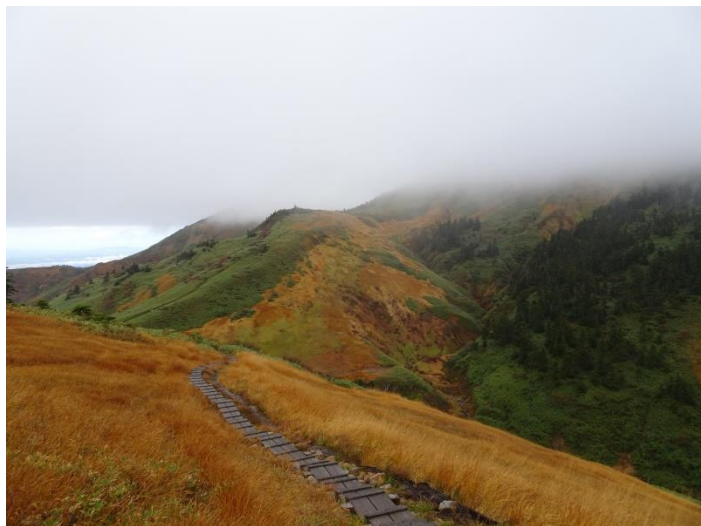
団体登山客が展望の良い所で休憩している。天狗岩という岩壁とその横の沢が眺められる紅葉の美しい絶景ポイントだ。ここからニセ巻機山 (九合目) までの錦絵のような景色に魅了させられた。

ニセ巻機山から木道を鞍部に下って行くと、草モミジが陽光に照らされコガネ色になったガキ田が広がっていた。まるで絵画の世界にいるようだった。間もなく避難小屋到着。小屋から緩い坂を進むと池塘が点在していて、池になだらかな山容が映っている。まさに「逆さ巻機」だ。

階段状の木道を上り稜線に出ると巻機山山頂の標識があった。さらに稜線上を見るとここより高いところがある。10分ほど行くとケルンが積んであり、ここが1967m地点と分かる。

ここで山座同定を試みるが、山にガスがかかっているのははっきり分からない。ただ南方向なので谷川岳方面だと想像できた。北側には以前登った八海山を同定できたので、その辺りが越後三山と分かった。

頂上で会話した神戸からきた夫婦は「明日は苗場、明後日は平ヶ岳」の予定だという。折角来たので関越の山々をまとめて登るのだろうか。気持ちは分かるが毎日は辛いだろうなあ。私は巻機だけではもったいないような気もしたが、家庭の事情を優先することにした。下山開始後、天気が徐々に回復してくる。私たちは錦絵の山肌を眺めながらゆっくりと山を味わいながら下りた。



(コガネ色の草モミジを見ながら木道を下る。ガスの中に巻機山頂上がある。)

「編集後記」

毎月の例会で個人山行情報なども入手出来ます。大変お忙しいとは思いますが積極的な例会参加を宜しくお願い致します。

日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、労山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。

登山時報投稿写真係 <mailto:tozanjiho@jwaf.jp>